

平成22年度

教育に関する事務の管理及び執行の
状況の点検及び評価報告書

田川市教育委員会

目 次

○ はじめに	1
○ 点検・評価の考え方について	3
○ 自己点検・評価について	
1 教育委員会の活動実績について	4
2 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務について	
学校教育課	7
教育総務課	23
生涯学習課	26
文化課	34
○ 資 料	
教育委員会会議議案一覧（資料1）	40
教育委員会会議報告等一覧（資料2）	41
教育委員研修会等参加状況（資料3）	42
教育委員学校訪問日程（資料4）	44
教育委員会委員名簿（資料5）	45

○ はじめに

1 教育委員会の事務の点検・評価制度の導入について

平成18年12月に、教育基本法が制定以来約60年ぶりに全部が改正されました。これに伴い、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部が改正、施行され、教育委員会は、毎年、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することとなりました。

教育委員会が、地域の教育課題や教育ニーズに応じた基本的な教育の方針・計画を策定し、これらに基づいて実施した政策について、その必要性、効率性等の観点から自ら点検・評価を行うことは、多様に変化する社会情勢や教育改革の動向を見据え、政策立案を的確に行うことに直結していきます。また、その結果を公表することは、市民に対する説明責任を果たすことで、市民の信頼を高め、開かれた教育行政を推進していくうえで非常に重要なことです。

この報告書は、平成22年度の教育委員会活動を、本市教育委員会が年度毎に作成している「田川市教育施策方針」に掲げた具体的な施策内容等と照らして、教育委員会自らがその進捗状況等について、点検・評価を実施し作成したものです。

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 教育委員会制度の概要について

(1) 教育委員会制度の仕組み

教育委員会は、首長から独立した行政委員会と位置付けられ、地域の学校教育、社会教育、文化、スポーツ等に関する事務を担当する、教育委員による合議制の執行機関として、すべての都道府県及び市町村等に設置されており、教育行政における重要事項や基本方針を決定しています。教育委員会を組織する教育委員は、首長が議会の同意を得て任命します。

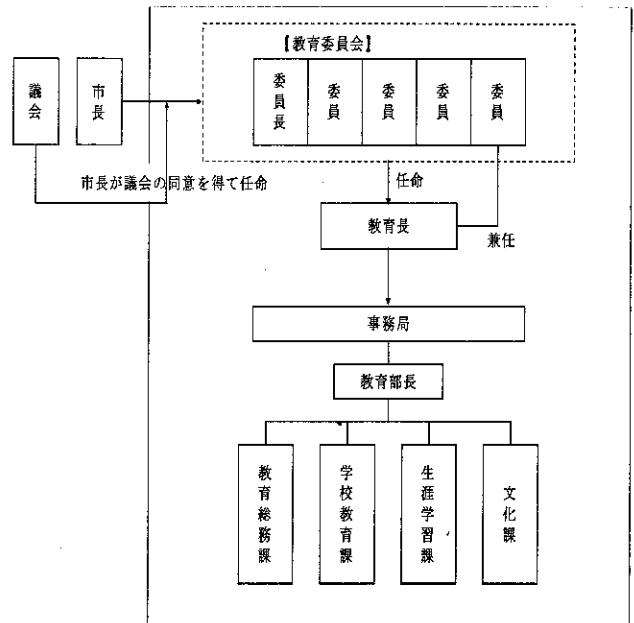
田川市教育委員会の組織

また、教育長は、教育委員のうちから教育委員会が任命し、教育委員会で決定した重要事項等に基づき、教育委員会の事務を執行します。

(2) 教育委員会制度の意義

教育委員会制度の意義としては、教育における政治的中立性の確保や継続性・安定性の確保、地域住民の意向の反映などが上げられます。

教育委員会は、地方における教育行政の中心的な担い手として、その役割を果たすことが求められています。



○ 点検・評価の考え方について

1 点検・評価の方法

点検・評価に当たっては、施策・事業等の内容と実績を明らかにするとともに、成果と課題等を示しています。

2 点検・評価結果の構成

(1) 点検・評価の対象

ア 教育委員会の活動状況

イ 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務（自己点検・評価シート）

「平成22年度教育施策方針」に掲げる主要課題を点検・評価の対象としています。

(2) 点検・評価の対象期間

平成22年4月1日から平成23年3月31日まで（平成22年度）としています。

(3) 点検・評価における内容及び成果

各項目の目標達成に向けて取り組んだ内容、成果、課題等を示しています。

(4) 評価

自己点検・評価シートについては、教育施策方針に掲げた主要課題に対する実施及び進捗状況等を踏まえ、AからDの4段階評価を行っています。

【評価判断基準】

A…著しい成果が得られた

B…概ね良好な成果が得られた

C…あまり成果が得られなかった

D…成果が得られず、課題を残した

3 担当課

自己点検・評価シートについては事業を実施した担当課が点検・評価を行いました。

4 学識経験者の知見の活用について

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条第2項に規定する「教育に関し学識経験を有する者の知見の活用」を図ることから、今回の評価を行うにあたっては、次の方に依頼し、評価いただきました。

田川市立学校学校評議員連絡会議副会長・西 朝義氏、田川市PTA連合会会長・河底誠二氏、社会教育委員・堤 圭史郎氏、社会教育委員・香月泰比古氏、社会教育委員・井手ひさ子氏、田川市立図書館協議会会長・是澤清一氏、田川市美術館協議会会長・片岡 覺氏、田川市石炭・歴史博物館等運営協議会会長・花村利彦氏。

○ 自己点検・評価について

1 教育委員会の主な活動実績

(1) 教育委員会会議の実施

田川市教育委員会会議規則第3条の規定に基づき、定例会は毎月1回、臨時会は必要に応じて開催し、教育行政に関する事項を審議しました。

ア 開催実績

定例会：12回 臨時会：2回 合計：14回

イ 議決の状況【教育委員会会議議案一覧：資料1】

議案の内容	件数
基本方針等の策定、事務の管理・執行状況の点検評価	2
教職員の人事関係	2
教育委員会規則等の制定・改廃	5
予算、条例等議会議決事項	5
教科書の採択等	1
審議会委員等の任免・委嘱	13
その他	3
合計	31

ウ 報告事項等【教育委員会会議報告等一覧：資料2】

報告：1件 事務報告：7件 合計：8件

エ 傍聴者状況

平成22年度状況								
開催月	種類	傍聴者数	開催月	種類	傍聴者数	開催月	種類	傍聴者数
4月	定例	0	9月	臨時	0	2月	定例	0
5月	定例	0	10月	定例	2	3月	定例	0
6月	定例	0	10月	臨時	0	-	-	-
7月	定例	0	11月	定例	2	-	-	-
8月	定例	0	12月	定例	0	-	-	-
9月	定例	0	1月	定例	0	合計	14回	4名

オ 広報活動状況

定例教育委員会会議開催日時については、教育庁舎玄関前へ掲示し、広報たがわ及びホームページへ掲載することにより周知を図っています。

また、会議録については、求めに応じて公開しています。

さらに、教育委員会のしくみや教育委員会委員の紹介、事務局各課の事業内容等をホームページへ掲載しています。

(2) 教育委員会と市長部局との連携

8月16日に幼児教育審議会から教育委員会への答申を受け、市長と教育委員で、今後の田川市における幼児教育の課題について協議を行いました。

(3) 教育委員の自己研鑽、他自治体との連携、情報交換等

ア 研修会への参加等【教育委員による研修会等参加状況：資料3】

福岡市で開催された第53回、第54回福岡県市町村教育委員会女性教育委員研修会や、筑紫野市で開催された福岡県市町村教育委員会連絡協議会教育長研修会に参加し、資質向上に努めました。また、今後の田川市における幼児教育の課題解決に向けて、先進地である宮若市立認定こども園さくら幼稚園と玄界ゆりの樹幼稚園(宗像市)の両園を訪問し、意見交換を行いました。

イ 他自治体との連携、情報交換等【教育委員による研修会等参加状況：資料3】

毎月開催される筑豊管内教育長会議に教育長が出席し、出席者との情報交換や研究協議を行いました。

(4) 学校訪問【教育委員学校訪問日程：資料4】

年次計画に基づく定例的なものとして、5月に小学校3校と中学校3校を訪問しました。6月、10月には小学校2校と中学校2校の授業充実学校訪問に参加しました。また、教育委員の校区担当制を取り入れ、委員が担当の学校を訪問することによって、

- ①学校と教育委員との結びつきを深める
- ②教育委員としての資質向上に努める
- ③各学校の取り組みを交流しながら教育委員の学習会を実施する

以上3つを目指すことにしました。その他、入学式、卒業式、体育祭、文化祭等の学校行事に出席し、式典でのあいさつ、校内の視察、学校関係者との懇談等を行いました。

(5) 教育施設訪問

成人式、公民館まつり、コールマイン・フェスティバル(炭坑節まつり)等所管施設で行われる行事に出席し、式典でのあいさつ、イベントへの参加、施設内の視察及び関係者との懇談等を行いました。

2 活動の評価

(1) 教育委員会会議内容について

教育委員会会議日前に事前配付された資料等について、会議前に案件への理解を深め、会議には教育部長、課長、教育研究所長等が出席し、議案、事務報告など、案件の説明を行い、適切かつ慎重に審議を行いました。

また、審議の中で、委員間及び事務局との活発な意見交換を行い、よりよい田川市の教育行政の実践に向け、改善点や要望を示しました。

(2) 教育委員会会議等の情報公開について

開催日等の情報については、事前に各媒体により公開し、市民に開かれた教育委員会を目指しました。会議録についても求めに応じて公開していますが、ホームページ上においても教育委員会の活動についてお知らせしています。

今後もさらに開かれた教育委員会を目指します。

(3) 自己研鑽及び情報交換等について

教育委員を対象にした研修会や協議会等に積極的に参加し、自己研鑽に努めました。また、研修会や協議会等に出席している他市町村教育委員会の教育委員をはじめとする関係者と交流を行い、教育行政について情報交換を行いました。

(4) 施設等の訪問について

学校、教育施設等で開催される各種行事へ積極的に出席し、教育現場の実情把握に努めました。また、その中で教職員等関係者との懇談や情報交換を行い、積極的に情報収集を行いました。

平成 22 年度 田川市教育委員会 自己点検・評価シート

○ 重点施策

第Ⅱ期学力向上プロジェクトのまとめと第Ⅲ期へ向けての教員の指導力の向上

主要課題	第Ⅱ期学力向上プロジェクトのまとめと第Ⅲ期へ向けての教員の実践的指導力の向上	
担当課	学校教育課	
課題対策の具体化	1 学力向上プロジェクトの報告会の実施と課題の把握をする	
実績	成果	<p>報告会を伊田小学校・伊田中学校区、大藪小学校・田川中学校区で実施することができた。</p> <p>学力向上プロジェクトの取り組み状況・成果や課題の把握をするための学習会を実施することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データに基づく校区の実態が明らかになった。 ・実態に即した学力向上の取り組みが実施されている。 ・校区毎の重点課題が明らかになった。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・校区としての課題解決のための小中のつながり・系統性を意識した教育内容づくりに着手していく必要がある。
課題対策の具体化	2 第Ⅲ期学力向上プロジェクトへ向けてプロジェクトチームの再編を行い、実効ある学力向上に取り組む	
実績	成果	<p>第Ⅲ期学力向上プロジェクトへ向けてこれまでのプロジェクト組織を見直し、新たなプロジェクト組織を策定することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中連携部会の新たな設置 ・調査研究部会の一本化（データ処理とデータ活用部を一本化） ・プロジェクト推進委員会事務局の明確な位置づけ
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・従来から設置されている食育推進部会・就学前部会・生徒指導部会の位置づけや活動の在り方を見直す必要がある。
課題対策の具体化	3 教員の指導力向上へ向けて研修会の実施とその充実を図る	
実績	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の授業力向上と職能成長に応じた教職員研修を推進した。 ・言語活動を意識的に位置づけた授業実践が広がった。 ・校内授業研究の開催回数が増加した。 ・田川市教科等研究会における各教科の公開授業研究が定着してきており、全ての教科や道徳・特別活動の領域で公開授業研究を実施することができた。 ・県・市教育委員会及び田川市立教育研究所主催の研修会への積極的な参加ができた。

	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の校内研究では、国語科を中心に言語活動を重視した授業研究に取り組んでいる学校が多い。他の教科でも言語活動を意識した取組を広げていく必要がある。 ・中学校の校内研究では、言語活動を重視した授業研究に取り組んでいるが、小学校同様に教科に偏りがある。
課題対策の具体化		4 少人数指導の実施と検証について取り組む
実績	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・市費負担教員配置により、小学校1～3年生においては、35人以下の少人数学級編成や複数での指導体制が実現し、個に応じた指導の充実を図ることができた。 ・習熟度別学習の実施 ・単純分割学習 ・複数でのTT指導
	課題	・小学校と中学校とのずれ（いわゆる「中1ギャップ」）の解消に向けて、中1にも、少人数授業の更なる実施が望まれる。
総合評価		<p>【B】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・概ね良好な成果が得られた。 ・様々な事業を実践しており、各学校でも実施することができた。 ・市費負担教員の配置などにより、個に応じた指導が充実できた。

○ 重点施策

よりよい生き方をめざす心の教育と体力づくり

主要課題		よりよい生き方をめざす心の教育と体力づくり
担当課		学校教育課
課題対策の具体化		1 道徳教育の充実と規範意識の育成
実績	成果	<p>児童生徒に基本的な倫理観や規範意識、生命尊重など基礎となる道徳性の育成を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田川市で筑豊地区道徳研が開催されるなど、道徳教育の研修の場が増えた。 ・「心のノート」を活用が進んできている。 ・キャリア教育を総合的な学習の時間に位置づけて実施できている。
	課題	・キャリア教育は、中学校や小学校高学年及び中学校で実践されているが、より人との出会いなどを工夫した実践が必要である。
課題対策の具体化		2 多様な体験活動を通して達成感を高め、社会貢献等のよりよい生き方をめざす意欲を培う

実績	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源を活かしたボランティア体験や福祉体験、自然体験を教育課程に位置づけた。 ・キャリア教育を各中学校において教育課程に位置づけた。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的なボランティア活動の推進が必要である。
課題対策の具体化		3 人権を大切にす教育とその啓発
実績	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の実施状況について点検活動を行うとともに、教務主任、人権・同和教育担当者の研修会ができた。 ・「心のノート」「かがやき」「あおぞら」「しなやか」を教育課程に位置づけて活用ができています。 ・よりよい対人関係を構築するソーシャルスキルワーク等の学習が多くの学校で実施されるようになってきた。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・人権感覚の育成に関して「人権意識アンケート」等の分析に基づいた実践の見直しが必要である。
課題対策の具体化		4 生徒指導に関する組織の強化と保護者・地域・関係機関との連携
実績	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ・不登校、非行等の問題解決を図る委員会で、いじめアンケートや自己他者肯定感テストを実施し問題の早期発見や早期対応に努めた。 ・学校評議員研修会を2回実施できた。 ・PTAや校区活性化協議会等と連携した校外補導の実施や情報交換が定着してきており、課題に対して連携した実践が行えるようになってきた。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学校サポート協議会を各中学校区で設置し、より連携を強めた取り組みが必要である。
課題対策の具体化		5 食育、体育をとおして食習慣、運動習慣の向上と体力づくり
実績	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校の体力診断テスト実施による実態把握のもと、体力向上プランを策定し、各学校の実態に即した体力づくりを行うことができた。 ・「新家庭教育宣言」に、ノーメディアの取り組みを新たに組み入れたことにより、各家庭毎にメディア漬けになっている日常生活の見直しができる。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校家庭科における食事づくり、弁当づくりなどの生活自立力を育成する場を増やす必要がある。
総合評価		<p>【B】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・概ね良好な結果が得られた。 ・様々な問題に対して地域や保護者と連携した取り組みが行えた。

○ 重点施策

地域に根ざした幼稚園・保育園（所）・小学校・中学校の連携推進

主要課題	地域に根ざした幼稚園・保育園（所）・小学校・中学校の連携推進	
担当課	学校教育課	
課題対策の 具体化	1 幼稚園・保育園（所）・小学校との連携による、子どもたちの基本的な生活習慣の確立	
実績	成果	幼稚園、保育園（所）、小学校の教職員等による市内合同研修会を実施して、子どもたちの実態の共有を進めた。 ・就学前実態調査の実施と課題の確認 ・課題から就学前教育、小学校の課題とその解決方法の協議 ・保護者との連携方策確立のための研修会の実施
	課題	・各校区の子どもや保護者の実態に応じた具体的支援策の検討を行う必要がある。
課題対策の 具体化	2 小学校・中学校の連携による基礎・基本的な学力の定着と個性の伸長	
実績	成果	学力実態にみられる課題を把握するために、校長・教頭・教務主任等の研修会を実施した。 ・市独自の实態調査の実施 ・課題解決を図る学力向上策の具体化 ・学力向上プランの作成と検証 ・小中合同研修会の実施
	課題	・市内小中学校では、中1ギャップの解消に向けて、小中連絡会、小中授業公開、小中交流授業など様々な取組を進めている。これらのことにより、小学校と中学校の連携は確実に充実してきているが、今後は、児童生徒や保護者を含めた交流を深めていく必要がある。
課題対策の 具体化	3 幼稚園・保育園（所）・小学校・中学校と県立大学との連携の深化	
実績	成果	幼稚園・保育園（所）・小学校・中学校がそれぞれで県立大学が有する知的・人的な財産を活用して、各校の課題克服に向けた取組を進めていった。 ・ボランティアの学生による現場体験 ・性教育など県立大の専門性を生かした授業 ・薬物乱用防止教育の実施 ・中学校区活動に向けた組織への県立大学としての参加
	課題	・就学前教育機関や小中学校では、県立大学との連携が進んできているが、県立大学との距離が近いところほど活発に行われているのが実情である。連携しやすいところはより連携の質を高め、連携が少ないところも工夫を行い、地域に根ざした連携を通して学校や校区の活性化を図る必要がある。

課題対策の 具体化		4 子どもたちの健やかな成長を願い、地域と連携する教育及び教育環境の整備
実績	成果	・各校区では、地域と連携して自主防犯活動や安全活動を進めてきている。 さらに、校区活性化協議会などの協力を得て、花壇や校舎内環境の整備が進んできている。
	課題	・登校時は、多くの人数のボランティアにより安全な体制が確立されているが、下校時の安全確保が十分でない箇所もある。今後の検討課題である。
総合評価		【A】 ・学校と家庭、地域との連携体制は毎年少しずつではあるが前向きに取り組まれてきている。今後とも、地域に根ざした学校づくりを進めていきたい。 ・歴史の長い小中連携、学校評議員連絡会議、校区活性化協議会などは、田川市の強みであり、特色であることから、さらに有効な活用を進めていきたい。

○ 継続課題

特別支援教育の充実

主要課題		特別支援教育の充実
担当課		学校教育課
課題対策の 具体化		1 特別支援教育の充実をめざした諸条件の整備や教職員研修の深化
実績	成果	特別支援教育支援員制度を有効活用できる学校体制を確立した。 ・LD（学習障害）やADHD（注意欠陥/多動性障害）など個の実態の把握と個に応じた教育を推進できた。
	課題	・特別支援教育支援員の各学校からの配置要望は多いが、全ての要望に応えることはできていない。
課題対策の 具体化		2 個々の障害に応じた適切な指導計画の作成による特別支援学級の経営
実績	成果	特別な支援を要する児童生徒への個別の支援を充実することができた。 ・社会性の育成や基礎的な学力の向上を図った。 ・特別支援学級宿泊研修における研修内容の充実ができた。 ・福岡県教育センターの指導主事を講師として招き、特別支援教育に関する研修会を開催し支援員の研修を行うことができた。
	課題	・個別の指導計画の内容の充実を図る必要がある。

総合評価	【B】 ・概ね良好な成果が得られた。 ・特別支援教育コーディネーターの育成が進み、個別支援への理解度が高まった。
------	---

社会の変化に対応した教育の推進

主要課題	社会の変化に対応した教育の推進	
担当課	学校教育課	
課題対策の 具体化	1 オルネット田川の活用と教育の情報化の推進	
実績	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・研修外の実施により情報教育推進者が育成できた。 ・学校のホームページが充実した。 ・学校ICTの導入により、教師用パソコン・プロジェクター・ペン型電子黒板・実物投影機等を活用し授業を行うことで児童生徒に具体的なイメージを持たせることができ、学力向上に寄与することができた。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校においては複数の情報教育に堪能な教員の育成を行っていく必要がある。
課題対策の 具体化	2 国際理解教育の推進及び外国語教育の充実	
実績	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の外国語活動及び外国語科における知識・理解、コミュニケーション能力の育成を図ることができた。 ・外国語指導助手（ALT）の活用により、実践的コミュニケーション能力の育成や外国の文化の理解を進めることができた。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生や外国籍住民等が地域にほとんどいないため、外国語の積極的活用と国際理解教育を推進していくことが難しい ・田川市雇用のALTが1人であるため、市内17校に十分な時間を派遣することができない。
総合評価	【B】 概ね良好な結果が得られた。	

幼児教育の充実

主要課題	幼児教育の充実	
担当課	学校教育課	
課題対策の 具体化	1 後藤寺幼稚園問題の解決	
実績	成果	・幼児教育審議会、教育委員会、緊急課題検討委員会での協議がなされるごとに後藤寺幼稚園職員、保護者への説明会を開催し、理解と協力要請を行ってきた。また、保護者アンケートを実施して、保護者のニーズの把握に努めた。
	課題	・24年度には後藤寺小学校の教室が不足する可能性があることから、緊急課題検討委員会での最終的な決定を速やかに行い、職員、保護者、地域への理解を得ていく必要がある。
課題対策の 具体化	2 田川市幼児教育審議会の継続設置	
実績	成果	・21年度に設置された審議会を継続設置し、慎重審議を重ねた結果、22年8月に教育委員会へ答申を出し、審議会の任務を終えた。
	課題	・審議会の答申を尊重した教育委員会方針を出すことができた。審議会答申の趣旨を活かしていくことが大切である。
課題対策の 具体化	3 幼稚園教育課程の実践的研究による教育内容の充実	
実績	成果	幼稚園内での授業研究や、3歳児保育にかかわるカリキュラム研究などを県立大学の協力を得て行ってきた。 ・授業力向上に向けた研修会の実施 ・3歳児保育カリキュラムの検討
	課題	・県立大学の協力を得て、3歳児保育カリキュラムの継続検討を進めていく必要がある。
課題対策の 具体化	4 幼稚園・保育園と小学校の連携強化	
実績	成果	各小学校に就学前教育担当の窓口職員を決め、就学前教育機関との具体的な連携を図ってきた。 ・各校区における就学前教育機関と小学校の連絡会議の開催 ・小学校職員による1日保育士体験研修の実施 ・入学予定児童に関する連絡会の実施 ・小学校体験授業の実施
	課題	・就学前教育機関と小学校の具体的な連携は、各校区が主に実施してきた。実際には、各校区での取組の差も生じていることから、市内研修会などで取組の実例などを提示して、より積極的に取り組んでいけるようにする必要がある。

総合評価	<p>【A】 就学前教育機関と小学校との連携は、年々充実したものとなっており、小1ギャップの解消には大いに役立っている。しかしながら、社会環境の変化などから保護者の意識も変わりつつあり、保護者のニーズを確実に把握することと保護者啓発に向けた取組を充実する必要がある。</p>
------	---

学校適正規模の検討

主要課題	学校適正規模の検討	
担当課	学校教育課	
課題対策の具体化	1 適正な通学区及び統合問題に関する継続的な検討	
実績	成果	・小学校統合に続いて、学校適正規模審議会の中期答申事項である小中一貫校に関する検討を行ってきた。特に教育内容面での取組を中心に進めてきた。
	課題	・中学校統合については、教科欠や学校運営の面からも問題が生じてきており、今後も進めていく必要がある。小中一貫校については、早急に教育委員会としての具体的な方向性を出す必要がある。
課題対策の具体化	2 船尾小学校跡地利用についての継続的な検討	
実績	成果	・船尾小跡地利用については、全庁組織の緊急課題検討委員会で検討が進められた。その結果、当面は市の文書庫としての活用を進めると共に、必要に応じて校庭開放事業もおこなうこととした。
	課題	・緊急課題検討委員会で一定の結論が得られたことから当面の課題は解決した。しかしながら、長期的な活用については、必要に応じて検討することが必要である。
総合評価	<p>【B】 児童生徒の学力向上や個性の伸長に向けて、どのような学校規模が最適であるか、今後、早急に検討を進めていくことが大切である。</p>	

田川市放課後児童健全育成事業の実施

主要課題	田川市放課後児童健全育成事業の実施
------	-------------------

担当課	学校教育課	
課題対策の 具体化	1 放課後児童の健康管理、安全確保、情緒の安定	
実績	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・指導員の専門性を高めるべく、特別支援を必要とする児童への対応力を向上させるため、講師を派遣し、現場に即した対応の指導や、学校との連携を図るために、現在の児童の状況や、教育についての理解を深めるための研修を実施した。 ・児童の健康管理については、冷暖房設備が整ったことにより、体調を崩す児童も少なかった。
	課題	・指導員の専門性を高めるための研修や、人権関係の研修の更なる充実化
課題対策の 具体化	2 遊びの活動への意欲と態度の育成	
実績	成果	・平成21年度に県事業により、体力を向上させるための「子どもの遊びの実施研修事業」が実施され、その事業で教わった遊びを実践し、遊びを通してのチャレンジ精神や、意欲を培った。
	課題	・遊びに積極的に参加する児童、しない児童がいることから、指導員側の遊びに関する創意工夫の必要性。
課題対策の 具体化	3 異学年での活動を通しての自主性、社会性の育成	
実績	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・児童クラブでは異学年で生活することから、児童同士が自然と仲良くなれるような遊びを実施し、スムーズに関われるようにした。 ・集団生活のルールや、みんなで話し合いをして、自主的にみんなで楽しく過ごすためにどうしたらよいかを考える機会を作り、社会性の育成を図った。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・異学年の集団構成のための適切な指導 ・児童間におけるお互いの思いやりや気配りなどの人権意識の育成 ・学年に応じた適切な指導の充実化。
課題対策の 具体化	4 放課後児童の遊びの活動状況の把握と家庭との連携	
実績	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・児童クラブの活動中に児童の間でトラブルが発生した場合は、必ず保護者に報告し、必要があれば、小学校へも報告をしている。 ・その児童に対してもそのことがどういうことなのかを理解させるための指導を行っている。時には、児童全員にとって必要なことであれば、みんなで考える機会を作り話し合ったりしている。また、どのような対応をするべきかを指導主事からの指導を実施した。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との信頼関係の構築 ・家庭の教育力低下による児童の問題行動の発生

課題対策の 具体化	5 その他放課後児童の健全育成上必要な活動	
実績	成果	・学校と児童クラブは同じ児童を預かっている。事務移管され2年が経過されたことにより、学校との連携もさらに充実化されてきた。
	課題	・学校と児童クラブの連携についての意見交換
総合評価	【B】 学校と児童クラブは違うものであるが、同じ児童を預かり、教育や指導をしている。児童クラブでは、主に異学年での集団生活となる。異学年で集団生活をする事は、なかなか難しく、指導も難しい。以上のことから指導員のさらなる研修の実施や、学校との連携の充実化を図っていきたい。	

田川コールマイン・フェスティバルへの協力

主要課題	田川コールマイン・フェスティバルへの協力	
担当課	学校教育課	
課題対策の 具体化	1 田川コールマイン・フェスティバルへの参加・協力体制の確立	
実績	成果	・定例校長会などを通じ、学校行事との重なりを避け、教職員・児童生徒のコールマインフェスティバルへの積極的参加を要請した。その結果、児童生徒の半数前後が参加することが出来た。
	課題	・今後とも、学校行事とコールマインフェスティバルの日程が重ならないようにする必要がある。
課題対策の 具体化	2 郷土の誇りや自律・自立を学ぶ学校全体の体制の確立	
実績	成果	・各校とも、総合的な学習の時間を中心に地域の方々をお呼びして、郷土の誇りをもつことができている。また、学習面、生活面でも主体的に活動する教育を重点的に推し進めている。
	課題	・学校だけでなく、地域や家庭との連携が重要であり、定期的な会合をもち、実情と課題、課題解決の方策を共有していくことが大切である。
総合評価	【A】 概ね良好な結果が得られた。	

教育研究指定事業などの推進

主要課題	教育研究指定事業などの推進	
担当課	学校教育課	
課題対策の 具体化	1 「第Ⅱ期学力向上プロジェクト」の研究発表と総括	
実績	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・報告会を伊田小学校・伊田中学校区、大藪小学校・田川中学校区で実施することができた。 ・田川市内の教職員が報告会に参加し、研修を深めることができた。
	課題	・これまでの具体的実践に基づいた第Ⅱ期学力向上プロジェクトの総括
課題対策の 具体化	2 国、県、諸団体による各種指定校における研究推進の充実	
実績	成果	・文部科学省指定「鎮西校区～人権教育推進地域事業（2年次）」において小中連携した取り組みの現状や細かな課題分析を行うことができた。
	課題	・研究協力校（弓削田中校区・金川中校区）との更なる連携の充実
課題対策の 具体化	3 県PTA連合会家庭教育支援事業及び県アンビシャスふくおか家庭教育宣言事業の推進	
実績	成果	・田川市PTA連合会と連動し、田川市全小・中学校で県アンビシャスふくおか家庭教育宣言を実施することができた。
	課題	・小・中学校における県アンビシャスふくおか家庭教育宣言の実施率の向上
総合評価	【B】 <ul style="list-style-type: none"> ・概ね良好な結果が得られた。 	

教育研究所所管事業

主要課題	1 教職員の資質向上をめざした研修会等の充実を図る	
担当課	教育研究所	
課題対策の 具体化	<ul style="list-style-type: none"> ・委嘱研究員を募り実践研究の深化を図ると共に、研究サークルの育成を推進し、研修活動への助言と援助に努める。 ・筑豊地区教育研究所連絡協議会の主催する教育実践研究研修会の充実を図り研修員の資質向上に寄与する。 	
実績	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・平成22年度は教育実践研究員（筑豊教育事務所）7人・田川市委嘱研究員2人と計9人の先生方に実践論文を書いていただいた。各小中学校の校長・教頭先生の声かけで研修活動ができ資質向上に寄与することができた。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度は今までに書いていなかった先生方を中心にお願いしたため、今年度は教育実践研究員（筑豊教育事務所）2人・田川市委嘱研究員3人と計5人と少なくなった。実践研究で昨年頑張ったから、今年は個人研究で論文を書くという先生が増えている。
課題対策の 具体化	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の研修意欲を高める資とするため、教育実践研究の募集、並びに、その所感集を発刊する。 ・教育実践研究応募者や長期研修員の研究成果を教育委員会の行う教育研究発表会を通して公表する。 	
実績	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・一昨年の福岡県教育センター・附属小学校で研修した先生方の実践発表の公表の場がとれ、本人の今の実践を見直す効果と、他の先生方の教育実践へのいい刺激になり、研修意欲を高めることができた。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度は福岡県教育センター・附属小学校で研修した先生方がいなかったので教育実践研究員（筑豊教育事務所）の中からお願した。毎年、福岡県教育センター・附属小学校での長期研修員を出してほしい。（今年度長期研修は2人）
課題対策の 具体化	教職員の研修意欲の向上と実践を通じた教育課題の克服に寄与するため、田川市教科等研究会の運営に参画する。	
実績	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・年間3回の教科等研究会を実施できた。第1回目に年間計画を立て推進員を決め教科・道徳・特活と、どの部会も授業研究をし、反省会を持ち、その年度の成果と課題をまとめ、冊子にまとめ上げることができている。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・部会員は教員の主体性を重視した希望制のため、少人数の部会ができてしまう。このことは部会所属を希望制にするという原則を堅持しながらも実態に即して柔軟に対応することで克服している。部会によっては、部会員数や活動内容によって小中合同の取り組みも進めている。

課題対策の具体化		教育課題の認識と問題解決意識の育成や指導技術の向上を図るため、教育講演会や実技講習会を開催する。
実績	成果	・実技講習会（体育・図工・理科・コンピュータ）は、一昨年同様の教科で行われたが、中身は、年々新しく、工夫された教材教具で楽しい実技講習が行われていた。教育講演会は、特別支援教育と生徒指導の2つの講演会が行われた。わかりやすく、すぐに実践できるような内容のすばらしい講演だった。
	課題	・実技講習・講演会…どちらも先生方の感想やアンケートから考えると、「楽しかった」「わかりやすく明日からの学級活動で生かせる」「もう少し聞きたかった」という内容の物が多く評価が高かった。
総合評価		<p>【A】</p> <p>・学校行事の忙しい中、たくさん参加できる日程を工夫するが、なかなかいい日が見つからない。夏休みの実技講習にしても8/10～8/20は計画しにくく8月の前半と後半で計画するのでどうしても学校行事や出張と重なってしまう。参加したいがどうしても参加できない。資料だけでも送ってほしいという先生もいるので、参加できなかった学校へは、資料を送っている。</p>

主要課題		2 調査研究の充実を図り、教育課題解決のための手立てとしての資料提供に努める
担当課		教育研究所
課題対策の具体化		<ul style="list-style-type: none"> ・研究所運営に関するアンケート調査等を通じた要望や教育現場の教育活動推進に関する要望を踏まえた調査研究を実施する。 ・学校教育及び生涯学習の充実を期する調査研究や教育行政施策推進上の教育課題克服に関する調査研究を行う。
実績	成果	・子どもたちには、「学校や家庭での学習について」、先生方には「学力と授業づくりについて」アンケートをとった。子どもたちには、学習の大切さや勉強する目的、これからどんな生き方をするのか考えていけるようにした。先生たちには、勉強の狙いをはっきりさせ、学習内容や学習形態、評価活動の工夫が求められている。
	課題	・各学校現場での厳しい現状が実態として現れている。このことから「自分もわかりたい」「勉強に集中したい」という子ども一人一人の課題を把握する中からより細かな指導が計画されなければならない。さらに、学級担任以外の教師・保護者・地域の協力を求めるなどの多方面からの対応が望まれる。
総合評価		<p>【B】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「児童・生徒の学校や家庭での学習に関する調査」 児童・生徒用 「学力と授業づくりに関する調査」 教師用 ・7年前の田川市アンケートと比較してみると、学習についてはかなり良くなってきているが全国に比べるとまだ差がある。このアンケートが学校・家庭・地域の役割についての基礎的な資料として教育力の向上につながればと思う。

主要課題	3 学校・学級不適応や生徒指導上の諸課題への対応の充実を図る	
担当課	教育研究所	
課題対策の具体化	適応指導教室の運営と不登校問題への対応を充実する	
実績	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度は中学生のみ7人（内2名は、お母さんにひきとられ外国から日本の学校に入ったが不適応の子ども）。2名の指導員で担当。学校・保護者等と連携を取りながらその時々での対応で工夫していた。教科・特別活動・体験学習を重ねる中で、厳しかった目も、日がたつにつれて穏やかな生活態度になり、顔も明るく落ち着いてきました。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・適応指導教室は市立体育館の中にあり、子どもたち独自の登下校はちょっとむずかしい。保護者からの自転車による通室願（併誓約書）等による通室者もいるが小学生になると難しい。小学生はどうしても送り迎えできる児童になってしまいそうである。
課題対策の具体化	関係学校、福岡県立大学、福岡教育大学等との連携を深め、教育相談の充実を図る	
実績	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・元小学校校長緒方先生（毎週木曜日午後）が行っている。昨年度はのべ件数68件、のべ人数72人である。相談内容の様相としては不登校傾向、学習不適応、教室外登校等が主であった。研究所を中心に工夫し、効果を上げていきたい。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・幼・小・中など教育現場からの申込件数は減少傾向である。中学校ではスクールカウンセラーが配置され援助あるいは治療が十分に施されている。家庭内の雰囲気子どもに与える影響が大きいことに気づいてもらうため子どもに気兼ねなく話し合ってもらうためにも保護者のみの相談も実施した。
課題対策の具体化	生徒指導上の諸課題を整理し、教育現場に提供することを通して、学校における生徒指導の充実を図る	
実績	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・一昨年に比べると昨年は対教師暴力-1、児童生徒間暴力-21、器物損壊-10、いじめ+1、不登校-11、家出-6、盗難窃盗-7、万引き-1、喫煙-16、飲酒-5、田川市教育委員会、校長・教頭会・補導主事主任会等の取り組みが中心となり成果が上がっている。毎月の月例報告を研究所で集計し報告書として各会議に提出している。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月、生徒指導上の諸問題について各学校から情報を集め、補導主事主任会で協議していくことが、効果を上げている。昨年度は携帯電話の掲示板等からトラブルが発生することも多かった。
総合評価	<p>【B】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関、筑豊教育事務所管内の各学校からの情報、不審者・声かけ事案を集約し、全学校に、その実態を資料提供している。 又、各学校と教育委員会・生涯学習課を通して校区活性化協議会青少年育成部会に一部関係情報を提供して取り組んでいる。 	

主要課題	4 資料センターとしての機能を充実する	
担当課	教育研究所	
課題対策の 具体化	既存教育図書及びビデオ教材等の整理、新規資料の充実を図ると共に、関係機関等の研究紀要や教育論文集も含め、その活用化を図る	
実績	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・新規購入寄贈図書やDVD、VTR等……DVD、VTR (+20) 図書 (+24) ・他市町村研究所の紀要（平成22年度分から田川市研究紀要CD化） ・貸し出しできないが、小学校の新教科書・指導書がはいった。 ・新規購入寄贈図書やCD、VTR等は、随時研究所通信『虹』で紹介 ・平和教育資料、WISC検査等の貸し出しが多くなった。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・福岡県内の他市町村研究所の紀要等も紹介したい。素晴らしい実践の論文がたくさん入っている。 ・紙芝居も954冊 紙芝居舞台5台…とたくさんあり、幼稚園や小学校低学年にも貸し出したい。
総合評価	<p>【B】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットの活用により図書の貸し出しが少なくなったので『虹』等を活用し、貸し出しの工夫をしていきたい。 ・本の紹介や、使えなくなった書籍を整理し、図書室内を活用しやすいようにしていきたい。 	

主要課題	5 児童・生徒の学習意欲を喚起する自由研究活動を実施する	
担当課	教育研究所	
課題対策の 具体化	学校との連携	
実績	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会の時期ということで、昨年度は日曜と月曜に『夏休み自由研究展』を田川文化センター1階で実施した。来場者は395人。月曜日は、お年寄りの方、近くの小学校児童、日曜日に来られなかった保護者と子どもでした。今年度は、やはり希望の多い土曜と日曜開催になりました。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・出展状況を見ると小学校256点、中学校35点でした。中学校の夏休みは、中体連・受験・部活動といろいろな行事もあるがもう少し出展数が増えるように声をかけていきたい。県理科研究展への推薦作品は3点であった。
総合評価	<p>【A】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大人の見学者の声「どの作品もとてもよく調べられているなあと驚きました。実験している者、資料をたくさん集めて調べている者、等、子どもたちの興味あるものが幅広く出展されており見てとても楽しかったです。皆それぞれ工夫していて小中学生とは思えない作品もあり驚きました。子どもたちも自分の作品と見比べていろいろと参考になったようで、また研究意欲がわいたようです。」 ・見て、考えて元気が出るような作品がたくさん出るよう工夫していきたい。 	

主要課題	6 地域や家庭の教育力を高める啓発活動を行う	
担当課	教育研究所	
課題対策の 具体化	公的機関紙等の活用	
実績	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・市政便りは、毎年3月15日号に載せている。昨年度は『児童生徒の学校や家庭での学習に関する調査』を載せた。 ・啓発活動としては毎月2回研究所通信「虹」をホームページに載せている。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ「虹」以外のホームページが、いつも遅れがちになっていること。早目の更新を課題としたい。
総合評価	<p>【A】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田川市立教育研究所では「皆様に役立ち利用していただくこと」を研究所運営のモットーに努力している。年度初めにアンケートで先生方の要望をお尋ねし計画を立てている。 	

主要課題	7 諸事業の充実に寄与すると共に、本市教育の充実に資する	
担当課	教育研究所	
課題対策の 具体化	福岡県教育研究所連盟等関係機関・団体との連携	
実績	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・福岡県教育センターや筑豊教育事務所や田川市教育委員会や筑豊地区教育研究所連盟と連携し、研究論文・研修と報告・授業研究等、日常的交流を図り、筑豊地区、田川市の教育研究所運営の活性化及び学校教育の充実に役立てるようにがんばっている。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・50代が多く、30代40代の人材育成を始め教育論文、授業研究、学級経営力をみにつけるべく中堅教員の育成に力を入れていく。
総合評価	<p>【B】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田川市は、あと10年で50代の先生方が退職し、半分くらいの学校の先生が入れ替わってしまう。そういう大事な時期にきていることをふまえ、教育問題研究会や学力づくり研究会を中心に、先輩教師たちも、これからの田川市の教育現場を考える上で多くのご指導を得なくてはならない。 	

平成 22 年度 田川市教育委員会 自己点検・評価シート

○ 重点施策

安全面・健康面及び環境に配慮し、質の高い教育に取り組むための教育環境の整備

主要課題	1 学校施設の耐震化の推進	
担当課	教育総務課	
課題対策の 具体化	年次計画による耐震診断及び耐震補強工事の実施	
実績	成果	<ul style="list-style-type: none"> 平成 21 年度から本年度初めにかけて、鎮西小学校、伊田中学校校舎の耐震補強工事を行い、引き続いて大藪小学校、鎮西中学校校舎の耐震補強工事を実施した。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> 校舎等建物の耐震工事は今年度ですべて終了したが、さらに安全性を高めるためにも建物に付帯する天井材、照明器具、窓ガラス、建具、壁など非構造物の耐震化を図る必要がある。
総合評価	<p>【A】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 18 年度から開始した市内小中学校施設の耐震化については、本年度をもって終了した。 	

主要課題	2 太陽光発電施設の設置	
担当課	教育総務課	
課題対策の 具体化	小学校 2 校への設置	
実績	成果	<ul style="list-style-type: none"> 今回、各小学校の立地や校区内における他の学校施設の状況、学校の規模、建設年数、電気の使用料などを比較、検討をして後藤寺小学校と伊田小学校に設置した。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> 設置には多額の費用が伴う。そのため、設置に当たっては国の補助金の動向を見守りながら対応する必要がある。
総合評価	<p>【A】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自然エネルギーが見直される中、太陽光発電施設を設置することでCO₂の削減に貢献でき、また子供たちに省CO₂、省エネルギーの仕組みや効果を体験できる環境学習の場ができた。 	

主要課題	3 学校の防犯対策の強化	
------	--------------	--

担当課	教育総務課	
課題対策の 具体化	学校施設における夜間警備及び小学校下校時の巡回警備の実施	
実績	成果	・前年度と同様、警備を委託している警備会社により、市立幼稚園を含めた各小・中学校の夜間・休日の警備（機械警備、巡回警備）を行った。特に小学校については、児童の下校時にも警備会社による巡回警備を行った。
	課題	・対象施設が多いため、巡回警備等において十分な対応ができない。
総合評価	【B】 ・概ね良好な成果が得られた。 ・今後とも子供たちの安全確保のため、でき得るかぎりの対策を講じたい。	

主要課題	4 学校施設の整備及び適切な維持管理業務の実施	
担当課	教育総務課	
課題対策の 具体化	学校施設の改修事業	
実績	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・中央中学校の屋内運動場は、建築後40年以上経過し老朽化が進んでいたことから、前年度に行った実施設計に基づき本年度は改築工事を実施した。 ・各学校の洋式トイレ増設を初め、猪位金小学校の渡り廊下屋根及び伊田小学校、弓削田中学校、鎮西中学校屋上の防水補修工事、伊田小学校給食室の改修等工事、金川小学校の消化水槽防水工事、弓削田中学校プールの防水塗装工事、伊田幼稚園のブロック塀改修工事などを行った。
	課題	・大部分の学校施設は老朽化が進んでおり、今後とも補修等が増加することが予想される。
課題対策の 具体化	生徒及び学校の安全対策事業	
実績	成果	・災害時の避難施設である金川中学校は、法面の勾配が急であり、また校舎等の建物と市道が隣接していることから、生徒等への安全対策として法面保護工事及び通路の振替工事を行った。なお、工事は23年6月に完了予定である。
	課題	なし
課題対策の 具体化	特別支援教育対象者への対策	
実績	成果	・障害を持った児童、生徒が転入学する場合は、各学校からの施設改修の依頼を受けて、その都度改修を行っているが、今年度は依頼がなかった。
	課題	・なし

総合評価	【B】 <ul style="list-style-type: none"> 概ね良好な成果が得られた。 学校施設の多くは建築後、年数が経っており老朽化が進んでいる。児童、生徒のためにも、でき得るだけの安全、快適な環境づくりに努めたい。
------	---

主要課題	5 学校施設の有効活用
担当課	教育総務課
課題対策の 具体化	余裕教室の必要に応じた転用
実績	成果 <ul style="list-style-type: none"> 児童、生徒数の減少に伴い生じた余裕教室は、各学校においてそれぞれ機能を持たせて活用した。
	課題 <ul style="list-style-type: none"> 後藤寺小学校の教室については、隣接する後藤寺幼稚園園舎が耐震性に問題があることが判明したため、前年度から緊急避難的に活用しているが、学校運営上からも、同園の方向性について速やかに決定する必要がある。
総合評価	【B】 <ul style="list-style-type: none"> 概ね良好な成果が得られた。 余裕教室は、各学校で必要に応じて転用し活用された。

平成 22 年度 田川市教育委員会 自己点検・評価シート

○ 重点施策

自主的な充実した地域活動の推進

主要課題	1 校区活性化協議会活動の推進	
担当課	生涯学習課	
課題対策の 具体化	組織の基本体制の維持（活性化事務局、公民館部会、青少年育成部会、社会福祉部会）	
実績	成果	<ul style="list-style-type: none"> 各校区活性化協議会の事務局長会議を隔月に開催し、1人1校区担当制により連絡調整も行い、校区活性化協議会活動の推進に取り組んでいる。成果としては、校区ごとに特色ある事業が展開され、事務局を中心とした三部会間の連携も図られているため、各校区ともに地域活動の活性化につながっている。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> 各部会ともに独自の役割に応じて活動しているため、組織の基本体制については、現状維持を図ることが望ましいと思われる。しかし、校区内で実施される事業についてはばらつきがある。
課題対策の 具体化	「男女共同参画計画」に呼応した女性の参画の推進	
実績	成果	<p>(1) 新たに男女共同参画室と連携を取り、田川校区と中央校区の2校区で女性部確立に向け男女共同参画研修会を実施した。（予算は男女共同参画推進室） 参加者数 田川校区 58人うち女性37人 中央校区 71人うち女性37人</p> <p>(2) 弓削田校区活性化協議会とPTAと協働で、弓削田小学校児童対象の「ふれあい餅つき大会」を実施、中央校区活性化協議会とPTAと協働で、田川小1年生対象の「七夕まつり」を実施するなど、男女共同での参加が促進された。</p>
	課題	<ul style="list-style-type: none"> 予算の関係上、男女共同参画事業は校区持ち回りで実施しており、単年度での全市的な取り組みとはなっていないのが課題である。 なお、平成23年度からは全市的取り組みとなるよう、事業の見直しを図る予定である。
課題対策の 具体化	地域と学校との協働による特色ある連携事業の推進	
実績	成果	<ul style="list-style-type: none"> 校区によっては、学校の運動会に併せて活性化の事業を行うなど、学校との連携が図られている。 また、近年では子どもたちに事業運営の一部を任せるなど、校区活性化中心の事業から、学校と協働することに主体をおくように進展させている事業も多く見られるようになった。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> 校区活性化協議会の事務局は、各校区とも学校内の空き教室を利用している校区活性化協議会発足当初よりも、学校と協働する事業が増えてはきているが、学校内に事務局を構えている特性を活かして、更に学校との協働事業を増やすことが求められる。

課題対策の 具体化		地域における家庭教育の向上をめざした事業の推進
実績	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・校区活性化協議会の公民館部会との連携のもと、各校区の公民館で家庭教育講座が開催された。開催地区公民館数 4館 ・地域で子どもを育てる手法を模索しながら、家庭・地域教育の充実を図っている。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の自主的・主体的な活動をめざしているため、講座の開催数が減少傾向にある。 ・市公連の総会で周知しているが、計画策定の助言及び講師のあっ旋など、行政のかかわりが課題である。
課題対策の 具体化		子どもの安全確保・青少年の非行防止を中心とした青少年対策室事業の推進
実績	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・各校区活性化協議会と協力し、青色パトカーによる市内巡回活動及び街頭啓発活動を実施、「子どもの安全確保」及び「青少年の非行防止」に向けた取り組みを行った。成果としては次のとおりである。 (1) 校区住民の青少年健全育成意識の高揚と犯罪抑止 青色パトカーによる巡回活動により、青パトの存在及び活動内容が、子どもや校区住民に浸透し、青少年の非行防止と不審者等に対する防犯意識が高揚して犯罪抑止に寄与していると思われる。 (2) 地域行事等の活発化 住民の間で「子どもの安全確保」と「青少年の非行防止」に対する意識が高まったことにより、各校区では青少年健全育成及び非行防止、子どもの安全対策等の活動や行事が活発化している。 <ul style="list-style-type: none"> ① 地域住民が主体の「青少年非行防止パレード」の実施 ② 地域ボランティアによる低学年児童の引率下校 ③ 下校時間帯の通学路要所におけるボランティアの立哨 ④ 地域住民と児童生徒の交流を図る各種フェスティバルの開催 ⑤ ボランティア組織独自の青パトによる巡回
	課題	<ul style="list-style-type: none"> (1) 行政と地域との連携強化 田川市まちぐるみ子ども安全連絡会議の関係機関・団体及び地域住民との連携は緊密化しているが、引き続き充実強化を図っていきたい。 (2) 地域の活性化 「子どもの安全確保」及び「青少年の非行防止」活動は、一部地域を除いて、行政主導による部分があることは事実であり、今後は「安全・安心まちづくり団体事業補助金」を活用するなど、積極的に支援し、活性化させることが課題である。 (3) 大人と子どもが一体となった地域づくりの支援 地域における様々な行事等が実施され、その内容も回を重ねるごとに充実しているが、今後更に、子ども参加型の地域行事を積極的に支援する必要がある。

課題対策の 具体化		地域内のネットワーク構築と社会福祉活動事業の推進
実績	成果	・社会福祉部会は、民生委員・児童委員や老人会が中心となって組織されているため、地域内のネットワーク構築が図りやすい体制となっている。
	課題	・ネットワークの構築については図られているが、社会福祉活動の中心的な役割を担う社会福祉部会については、他の部会に比べて独自の事業展開が少ない傾向がある。
課題対策の 具体化		各校区3部会の活動状況に応じた公正な補助金配分の実施
実績	成果	・平成18年度に開催された校区活性化協議会改革推進委員会の答申に基づき、補助金の事業評価割が5%から年次的に10%まで引き上げられたことにより、校区間の競争意識が高まった。その反面、年々、各校区への補助金配分について差が広がってきたため、校区間の協議により平成22年度からは事業評価割を5%に戻して配分している。
	課題	・事業評価制度を導入している弊害として、各校区の特色を活かした事業よりも事業評価制度において得点を得やすい事業を行う傾向も見える。 ・3年毎に改革推進委員会を行っているため、事業評価割の取扱いについて、今後の運用方法等を再検討する必要がある。
課題対策の 具体化		地域活動の創意工夫による自主財源の確保と適正で効率的な補助金配分の推進
実績	成果	・弓削田校区においては「100円募金」という取り組みにより、自主財源を確保している。 ・自主財源確保により、補助金のみに頼らず、幅広い予算執行が行えている校区もある。
	課題	・自主財源の確保については、地域住民の理解が必要である。 補助金のみで事業を運営している校区が多いが、各校区ともに自主財源の確保は難航しているのが現状である。
課題対策の 具体化		広報活動の活発化と事業の促進
実績	成果	・各校区では、年3・4回の活性化だよりを事務局が発行している。また、広報たがわ『地域だより（月1回・原則として15日号）』と田川市ホームページでは地域活動（校区活性化協議会及び地区公民館等）及び中央公民館活動（生涯学習課等）で行われる各種事業の紹介や募集等について掲載している。
	課題	・広報たがわ『地域だより』と田川市ホームページで各種の取り組みを紹介しているが、市民に深く浸透していない。

総合評価	<p>【B】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校区活性化協議会については、平成10年に設立後、3年に一度の「地域活動活性化協議会改革推進委員会」を開催し運営面等について検討を行っている。その検討結果に基づき事業内容を見直してきたことにより、校区活性化協議会の事業も年々向上・充実の傾向にある。しかし、本来の地域のふれあいを考えた事業より、幾人の住民を集めることができるのかといった事業を優先させるような側面も見受けられるとの意見があっている。よって、より密接に地域のふれあいができる事業とは何なのかを、校区活性化協議会と一緒に模索する必要がある。なお、職員一人一校区制に対し、良い評価を得ている。 ・住民自治を強めるよう期待する。
------	--

主要課題	2 生涯学習の拠点としての公民館活動の推進	
担当課	生涯学習課	
課題対策の 具体化	中央公民館の役割	
実績	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・中央公民館は、昭和61年に開館されて以来、社会教育や生涯学習のために施設の提供を積極的に進め、生活・文化の向上と社会福祉の増進に努めている。新規講座の開設等にも取り組んでおり、田川市の生涯学習推進の拠点として寄与している。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習の拠点施設として、市民の教育文化の向上を目指していることから、各種講座や学級、人材バンク事業の推進に取り組むことが求められている。市民の生涯学習に対するニーズを捉えていくことが必要である。
課題対策の 具体化	地区公民館の役割	
実績	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・市内に89ヶ所の公民館と6ヶ所の集会所が設置されている。 ・地区公民館については、田川市公民館連絡協議会が主体となって、それぞれの地域の生涯学習の中心的な機能を果たしている。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域単位の生涯学習の拠点となっている地区公民館であるが、公民館活動の盛んな地域が多い中、活用があまり図られていない公民館もある。
総合評価	<p>【B】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央公民館については、毎年一回、公民館運営審議会を開催し、事業の見直しを図っている。また、地区公民館については、田川市公民館連絡協議会や関係各課との連携を図り、地区公民館活動の推進を図る必要がある。 ・地域により公民館活動の取組みに温度差があり、参加者も固定されている公民館もある。少子高齢化が進行し、公民館活動そのものが暗礁に乗り上げかけている地域もないとはいえない。地域住民が一体となり、各地域における取組みに参加することが必要とされるが、今後も、地区公民館の活動を推進していく必要がある。 	

○ 重点施策

人権・同和教育の推進と青少年の健全育成

主要課題	1 人権・同和教育の推進	
担当課	生涯学習課	
課題対策の 具体化	人権・同和教育事業及び啓発活動	
実績	成果	<p>(1) 地区公民館等人権・同和教育講座及び中央講座の開設 地区公民館 4回 校区活性化協議会 3回 市同教行政会員を対象とした中央講座を3月1日開催 参加人数 80人</p> <p>(2) 社会参加促進事業の推進 自動車免許取得識字学級の開催 60回 120時間 参加人数 56人 識字学級の開催 16学級 延べ日数332日 664時間 参加人数 80人</p> <p>(3) 子ども会地区学習事業（少年期人権啓発推進事業）の実施 人権学習 242日 小学生リーダー研修、中学生合宿研修の開催（英彦山青年の家）</p> <p>(4) 社会教育指導員の設置 地区学習、友の会での指導、助言を行った。</p> <p>(5) 人権フェスタの開催及び人権ポスターの展示 12月12日青少年文化ホールにて開催 参加人数 372人 人権ポスターの展示 公民館まつり 10月10日 人権週間（市役所玄関口） 12月2日～11日 人権フェスタ（青少年文化ホール） 12月12日 ポスター応募者数 小学生34人 中学生24人</p>
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地区公民館及び校区活性化協議会の人権・同和教育講座の開設が目標値に届かなかった。今後は募集の方法について、検討する必要がある。 ・国の補助が終了し、県の補助も識字学級や啓発に特化されている。縮小する予算の中で事業の継続を図る。
総合評価	<p>【B】 社会参加促進事業の推進、人権・同和教育中央講座の実施、地区公民館等人権・同和教育講座の実施、子ども会地区学習事業（少年期人権啓発推進事業）の実施により人権・同和教育の推進を図っている。</p>	
主要課題	2 青少年健全育成と家庭教育力向上への支援	
担当課	生涯学習課	

課題対策の 具体化		青少年の健全育成事業
実績	成果	<p>【わたしの主張大会】</p> <p>人格を形成する上で重要な時期にある青少年が、日常生活を通じて日頃考えていることを発表することにより、同世代の青少年に社会の一員としての自覚を促し、あるいは目覚めることを期待し、11月20日に田川市「わたしの主張」大会を実施した。また、翌年2月5日、田川市郡の代表者9名が集い田川地区大会を開催。この大会を通じて、青少年の健全育成に対する一般の人々の理解と協力が更に深まるきっかけとなった。</p> <p>【立入調査】</p> <p>非行防止及び環境浄化を目的に、福岡県青少年健全育成条例に基づく立入調査を7月と11月の年2回実施。市内の書店、ビデオ店等の立入調査を実施し、青少年の非行防止を未然に防止するよう取り組んだ。</p>
	課題	<p>【わたしの主張大会】</p> <p>大会への参加者が年々減少傾向にある。</p> <p>この大会を通じて、青少年の健全育成に対する一般の人々の理解と協力が更に深まるきっかけとなるよう周知を強化するとともに、実施会場について検討する必要がある。</p> <p>【立入調査】</p> <p>青少年の非行防止を未然に防止するため、今後もより一層、関係機関・団体及び地域住民との連携の充実強化を図る必要がある。</p>
課題対策の 具体化		家庭教育力向上への支援
実績	成果	<p>【0歳期教育親子教室の実施】</p> <p>9月から10月にかけて6回の講座を開催。</p> <p>また、受講生が安心して受講できるよう託児を完備した。子育てに対する考えや悩みをお互いに共有することにより、解決策を見出すきっかけとなった。</p>
	課題	<p>【0歳期教育親子教室の課題】</p> <p>限られた予算の中で、子育て中の保護者のニーズに合った講師の選考を行い、親子教室の継続を図りたい。しかし、関心のない親の参加をどのように促して行くか、また、事業実施にあたり財源を補助金に頼っているため、今後事業を継続するために、いかに財源を確保して行くかが課題である。</p>
総合評価		<p>【B】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育講座等各種講演会の実施、「広報たがわ」青少年特集号の発行、「わたしの主張大会」の実施、0歳期親子教室の実施など青少年健全育成、家庭教育力の向上に努めている。 ・年期の教育も必要である。サポートしている団体の評価も含んでよいのではないかな。

○ 重点施策

誇りあるまちづくりをめざす生涯スポーツの振興

主要課題	1 生涯スポーツの振興	
担当課	生涯学習課	
課題対策の 具体化	体育・スポーツの推進	
実績	成果	・体育協会・体育指導委員や各関係団体の協力により、健康維持・増進を目指した市民スポーツの浸透が深まり、今後も充実を図りたい。
	課題	・青少年が田川地域でのスポーツの普及・振興を目指すには、中学校体育連盟と高校体育連盟との連携と協力体制の整備・充実により、地元の中学校や高校での部活動の実施を図る必要がある。また、子どもの体力低下が深刻な状況の中、親と子がともに参加できる体力向上教室等の開催を検討する必要がある。
課題対策の 具体化	総合型地域スポーツクラブ事業の推進	
実績	成果	・地域住民のスポーツ活動に関する意識が高まり、スポーツライフも多様化する中、誰もがそれぞれの年齢、体力、技術、興味、目的に応じてスポーツに親しむことができる、「総合型地域スポーツクラブ」を立ち上げるため、平成12年に後藤寺スポーツクラブ、平成14年に県立大学を中心にしたEASTクラブ、平成16年には猪位金中学校区を対象にしたいのっこクラブ、平成19年には鎮西中学校区を対象としたL&Sクラブ、平成20年度には中央中学校区を対象とした中央スポーツクラブを設立し、「いつでも、どこでも、だれもが」をスローガンに自主運営で実施している。
	課題	・既設、新設予定箇所ともに指導者の育成に苦慮しているため、人材の養成を目的とした研修会の開催が必要である。
課題対策の 具体化	各種スポーツの振興	
実績	成果	・市民体育大会や県民体育大会などの大会により、住民の継続的なスポーツ習慣の普及・啓発ができた。
	課題	・子どもの体力・運動能力の向上を図るために、学校における新体力テスト実施への協力やスポーツへの参加機会の提供が必要である。
課題対策の 具体化	体育施設の管理・改修等	

実績	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体育施設の管理については、指定管理者制度を導入していることにより、経費の節減が行われた。また、改修等については、年次計画を策定し、平成22年度実施予定分については、予定どおり行った。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 改修等について、経年劣化により、年次計画にあがっていない修繕が発生している。
総合評価		<p>【A】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子供から高齢者まで、公共体育施設及び地域公民館を活用し、健康増進を目的としてスポーツ教室が実施されている。 ・ 今後も生涯スポーツの振興に努力していきたい。 ・ 総合型スポーツクラブ事業は、種目も減少し、活動の低下が見られる。 ・ これからも、親子スポーツクラブ助成金の活用など、側面からのサポートをいただきたい。また、体育大会については、未経験者でも参加できる種目（ウォーキング大会など）の設置も考えていただきたい。

平成 22 年度 田川市教育委員会 自己点検・評価シート

○ 重点施策

誇りあるまちづくりをめざす文化の振興

主要課題	1 芸術文化の振興	
担当課	文化課	
課題対策の 具体化	市民文化祭、こども音楽祭の開催、懐かしの名画祭（文化センター・青少年文化ホール）	
実績	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・市民文化祭 市民の芸術文化活動である創作発表会を通して団体相互の交流を促進すると共に市民文化の高揚を図るため、市民文化祭を開催した。 ・懐かしの名画祭 文化庁より優れた懐かしの名画を誘致し、一般市民に映画鑑賞の機会を提供した。 ・こども音楽祭 市内園児、小・中学校の児童・生徒、一般市民などによる楽器演奏、吹奏楽、合唱など日頃の練習成果を発表する場を提供し、園児から大人までの相互の音楽交流と発展に努めた。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・市民文化祭、懐かしの名画祭、こども音楽祭、以上三つの全ての行事において、参加者及び参加団体数が増加したが、今後も参加者及び参加団体数の増を目標とし、より効果的な広報活動を行うこと、又、主催団体及び共催団体間の協力、連携を強める等の改善を行う。
課題対策の 具体化	芸術文化体験事業（文化センター・青少年文化ホール）	
実績	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の芸術文化活動の向上発展に資するため、関係機関や文化団体等と協力、連携し、本年度はザ・ソウルマティックスを招聘し「ゴスペル・ライブ・コンサート」を上演した。日頃、接することの少ない優れた本物の舞台芸術を体験する機会を設けることで、青少年のゆとりある心と豊かな感性を引き出し、文化に対する理解の充実を図ることが出来た。小学校 5 校、中学校 5 校の計 10 校、964 名が参加した。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・例年会場が田川文化センターとなっており、児童、生徒は各学校から徒歩及びバスで会場まで移動する必要があるため、文化センターから離れた地域の小・中学校の児童・生徒の観覧が少ない。しかし、遠足との併用やバスを手配して参加する学校もでてきたことから、今後より多くの学校に参加を促したい。
課題対策の 具体化	文化団体の育成（文化センター・青少年文化ホール）	

実績	成果	<ul style="list-style-type: none"> 文化振興基金 文化団体の育成を図り、文化活動が市民に定着するように支援し、市民の自主的な芸術・文化活動等を奨励するため「田川市文化振興基金」の効率的な運用を図っている。平成22年度は2団体からの申請があった。 田川文化連盟 田川文化連盟は60年以上の歴史を持ち、その活動を通して資質の向上と地域文化の充実発展に努めている。事務業務を一部補助する形で関係団体を支援し、連携強化を図りながら地域に受け継がれた伝統文化、特色ある地域文化の育成に努めた。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> 地域に受け継がれた伝統文化、特色ある地域文化をより一層充実させるために田川文化連盟と本市との間で共通の目標を設置し、今まで以上に連携を取り事業活動の企画・運営を行う必要がある。
課題対策の具体化		魅力ある企画展の開催（美術館）
実績	成果	<ul style="list-style-type: none"> 筑豊の陶芸家グループ「筑陶会」を紹介した自主企画展「筑陶会 八人展」を開催し、新作を含めた160点を一堂に展示した。 開館20周年記念の第1弾として、所蔵品約2,000点の中から選りすぐりの優品を紹介した「多彩な美 田川市美術館の歩み」と題した展覧会を開催し、入館者の投票による「ベストオブ田川市美術館」の作品を選出した。 日本近代洋画の巨匠 小磯良平を取り上げた。聖書のさし絵原画と小磯良平記念美術館の協力のもと、油彩も展示し、優れた人物表現と情景描写を堪能してもらう展覧会となった。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> 「筑陶会 八人展」は、1980年に発足し、互いに研鑽を積みながら活動を続けている筑陶会を丹念に取材し、作品とともに紹介することで、一般の人にもわかりやすい展覧会になった。今後も作家の取材を続け、郷土作家の活動を把握することが地域に根ざす美術館として必要である。 「多彩な美 田川市美術館の歩み」は、田川市民の財産である当館の収蔵品を、より多くの方に、特に市民の皆様にご覧いただきたいとの思いでの展覧会であったが、入館者が伸びなかった。誰もが知るような美術作品ではなくても、優れた作品があるということを市民に伝えるさらなる努力が必要である。
課題対策の具体化		市民の多様なニーズに応える美術館（美術館）
実績	成果	<ul style="list-style-type: none"> グループ展、個展、コンサート等、市民の文化活動の発表の場として施設利用された。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> 経済状況を反映してか、貸館の施設利用が減少した。新規の利用者もあつたが例年ほどの利用がなく、展示室が空いている時もあり、入館者数の減にもつながった。HPでも貸館についてのお知らせを掲載しているが、個人の芸術活動についての支援まではなかなか届かない。
課題対策の具体化		教育普及事業の推進（美術館）

実績	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 展覧会ごとにテーマに即したワークショップを開催し、好評を博した。 ・ 毎年好評の講座「夜の美術館」平成 22 年度は「多彩な美展」に合わせて、「田川市美術館 コレクションをめぐって」と題して開催した。 ・ 「魔女の宅急便の世界展」のイベントとして、子供向けの連続ワークショップを開催した。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「夜の美術館」は根強い人気講座であるが、参加者が固定化する傾向にあり、参加人員も多少減少した。今後、テーマ等、内容について練っていく必要がある。 ・ 子供向けの連続ワークショップは申込み者が多く、親子で参加できるものもあり、好評であった。課題としては、参加人数に対して十分な作業スペースを取れなかったことと、対象年齢に幅がありすぎたのではないかとということで、今後のワークショップ開催の検討要件となった。
課題対策の具体化		学校教育、他館との連携（美術館）
実績	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校からの施設見学及び展覧会鑑賞時の解説、学校からの要請により伊田中学校に出前授業を実施した。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企画展ごとに田川市郡の小中学校への広報は行っているが、学校現場の事情もあり、出前授業の回数は増えていない。年度当初に各展覧会の内容と可能な出前授業の内容等を学校現場に周知し、連絡調整する仕組みを作ることが必要である。
総合評価		<p>【B】 (文化センター、青少年ホール)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文化事業については、田川文化連盟や田川ロータリークラブの協力連携によって多くの市民が参加する事業が実施できた。すべての行事において参加者数は増加しているが、今後更なる市民文化活動の充実を目指し、事業の充実を図る必要がある。 <p>(美術館)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 企画展の内容については、どれも自己評価できると考えるが、入館者数が伸びなかった。美術館主催の企画展だけでなく、貸館の利用が少なかったことも、入館者数の減につながった。

主要課題	2 読書活動の推進
担当課	文化課
課題対策の 具体化	子どもに対する読書対策（図書館）
実績	<p>成果</p> <p>子どもの読書への関心を喚起するため</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田川市子ども読書推進計画（改訂版）の作製に着手 ・隔週金・毎週土曜日 ボランティア等による絵本の読み聞かせ ・4月25日 子ども読書の日イベント開催（参加35名） ・10月24日 田川市読書まつり開催（参加35名） ・夏休み 読書マラソン（参加者393名） ・12月19日 図書館こどもクリスマス会（参加117名） <p>子どもの読書活動を推進するためのボランティアの育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月5日・26日、11月30日、12月14日、2月12日・26日 ボランティア養成講座開催（受講者114名） <p>絵本を媒体として赤ちゃんと保護者のコミュニケーションを推進する事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブックスタート事業 毎月7ヶ月健診時に開催（配布者152人）
	課題
課題対策の 具体化	市立図書館と小・中学校図書館との連携（図書館）
実績	<p>成果</p> <p>学校図書館協議会との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月28日 こども童話発表会の開催（来場者110名） ・1月13日～24日 読書感想画展開催（応募者118名 優秀者51名） ・2月9日 感想文コンクール優秀者文集配布（応募者86名 優秀者31名） <p>図書館見学の受入れ（4校 206名）</p> <p>図書館職場体験学習（4校 10名）</p>
	課題
課題対策の 具体化	図書の資料収集の充実や必要な資料の提供等（図書館）
実績	<p>成果</p> <p>貸出し数 201,290件</p> <p>受入図書資料 6,711冊</p> <p>リクエスト件数 4,661件</p> <p>他図書館との相互貸借 486冊</p> <p>参考業務受付件数 986件</p> <p>レコードコンサートの開催 月一回 延べ164人参加</p>
	課題

課題対策の 具体化		自動車文庫の積極的運営（図書館）
実績	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・22年度自動車文庫貸出し冊数 37,042冊 ・一般市民を対象にした停留所（31箇所） ・学校・保育園・幼稚園や社会福祉施設等（42箇所）
	課題	・自動車文庫における貸出し冊数は増加傾向にあるが、新規の停留所等の申請があった場合、日程に余裕がないため、受入れが困難になってきている。
総合評価		<p>【B】</p> <p>生涯学習の基地として、子どもの読書活動の推進の場として、利用者へのサービスを提供している。実績としては、暖房機器の故障、その修理に伴う臨時休館（1日）、天候不順等により、貸出し冊数は前年と比較して約5千7百冊の減となった。</p>

主要課題		3 「石炭の歴史」の発信と文化財保護
担当課		文化課
課題対策の 具体化		博物館機能の充実（博物館）
実績	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・話題を提供することにより、様々なメディアで取り上げられたので、博物館への関心が高まった。 ・入館者が増加し、問い合わせ件数が増えた。 ・筑豊地域の資料館や県内各機関及び釧路市立博物館と連携して、調査・研究を進めることができた。 ・屋外展示物の一部を補修した。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・収蔵資料の保管・整理（収蔵庫の拡充）及び老朽化による展示物の補修・改善をする必要がある。 ・屋外展示物については、年次計画を立てて、実施していきたい（H22～H24）
課題対策の 具体化		教育普及活動の強化（博物館）
実績	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・館長講座「炭坑の語り部」、教職員対象研修講座、体験学習「勾玉作り」、「石炭を燃やそう」、文化財探訪（唐津地区見学）等、各種講座を実施した。 ・企画展では「発掘された炭鉱」と「筑豊の鉄道～石炭とともに駆けた機関車たち」を開催し、関連事業とともに好評を得た。 ・館報、博物館だよりの刊行物等で普及と活用を図った。
	課題	・学校教育等と密接な連携を図り、若い世代の博物館の活用をさらに充実させる必要がある。
課題対策の 具体化		文化財の保護と活用（博物館）

実績	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・世界遺産登録推進との関係で、炭坑関係の遺産に関する調査・研究が進展し、近代化産業遺産への住民の関心を高められた。 ・埋蔵文化財の開発に伴う事前審査、民俗芸能保持団体への助成金等を通じ、市内文化財の効果的な保存活用を図った。 ・「遠賀川流域古墳同時公開」等を通じて、他市町村と連携した埋蔵文化財の活用に効果があった。 ・松原炭鉱住宅取り壊しにあたって、詳細調査(九大委託)を行い、記録として残すこととなった。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・石炭産業関連遺産の保存活用 ・埋蔵文化財の効果的な保存 ・指定文化財の効果的な保存活用
課題対策の具体化		国史跡指定への推進(博物館)
実績	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・伊田斜坑敷地内の認掘確認調査を行い、地上施設の基礎部分が多く遺存していることを確認できた。発掘調査指導委員会(7月、1月)を開催し、指導を仰いだ。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・旧三井田川鉱業所伊田坑(竪坑・斜坑)の開坑から閉山までの変遷を明らかにするよう文化庁から要求されている。
課題対策の具体化		山本作兵衛炭坑記録画等の保存活用(博物館)
実績	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・山本作兵衛炭坑記録画等は、ユネスコのMOW(世界記憶遺産)に平成22年3月31日に申請しており、平成23年6月末に正式登録される見込みである。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、総合政策課を事務局とし準備委員会を設置し緊急な対応や今後の取り組みについて準備に努めているが、速やかに検討委員会を設置し、正式決定後の当該世界記憶遺産の本格的な保存活用に取り組んでいく。
総合評価		<p>【B】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山本作兵衛炭坑記録画については、MOWに係る規則や基準等に基づき、当該記憶遺産を保存することが必要であり、適切な維持管理、博物館運営の充実が求められている。 ・博物館の講座、イベント、企画展等の開催等により、開館以来、来館者が過去最大(26,241人)となり、博物館への関心が高まった。

教育委員会会議議案一覧

(資料1)

議案番号	件名	議決日
第 11 号	田川市教育職員の任用、賃金等に関する規則の制定について	H22. 4 . 5
第 12 号	平成 22 年度教育施策方針について	H22. 5.12
第 13 号	平成 22 年度教育費（6 月補正）予算要求について	〃
第 14 号	平成 22 年度田川市立学校学校評議員の委嘱について	〃
第 15 号	田川市体育指導委員の委嘱について	〃
第 16 号	田川市スポーツ振興審議会委員の任命について	〃
第 17 号	平成 22 年度田川市立学校学校評議員の委嘱について	H22. 6. 7
第 18 号	田川市社会教育委員の委嘱について	〃
第 19 号	田川市図書館協議会委員の任命について	H22. 7. 7
第 20 号	田川市美術館協議会委員の任命について	〃
第 21 号	田川市石炭・歴史博物館等運営協議会委員の委嘱について	〃
第 22 号	田川市文化財専門委員会委員の委嘱について	〃
第 23 号	平成 22 年度教育費（9 月補正）予算要求について	H22.8.10
第 24 号	平成 21 年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価報告書について	〃
第 25 号	平成 23 年度使用小学校教科用図書の新採択について	〃
第 26 号	田川市就学指導委員会委員の委嘱について	〃
第 27 号	田川市社会教育委員の委嘱について	〃
第 28 号	田川市幼児教育審議会の答申について	H22. 9 . 8
第 28 号	田川市幼児教育審議会の答申について	H22. 9.24
第 29 号	田川市教育委員会教育長の選任について	H22.10 . 6
第 30 号	平成 22 年度教育功労者の選考について	〃
第 28 号	田川市幼児教育審議会の答申について	〃
第 28 号	田川市幼児教育審議会の答申について	H22.10. 27
第 31 号	平成 22 年度教育費（12 月補正）予算要求について	H22.11 . 8
第 32 号	田川市育英資金条例の一部改正について	〃
第 28 号	田川市幼児教育審議会の答申について	〃
第 33 号	平成 23 年度田川市立小・中学校教職員人事異動方針（案）について	H22.12. 14
第 1 号	平成 23 年度教育費当初予算について	H23. 1.12

第 2 号	田川市立学校学校司書員の任用に関する規程の制定について	〃
第 3 号	田川市育英資金条例施行規則の一部改正について	H23. 1.12
第 4 号	平成 22 年度教育費（3 月補正）予算要求について	H23. 2. 9
第 5 号	田川市教育職員の任用、賃金に関する規則の一部改正について	〃
第 6 号	田川市教育委員会事務委任及び臨時代理規則の一部改正について	H23. 3. 9
第 7 号	田川市石炭・歴史博物館等運営協議会委員の委嘱（交代）について	〃
第 8 号	田川市育英資金委員会委員の任命について	〃

※議案番号は、毎年 1 月を基点としています。

教育委員会会議報告等一覧

(資料 2)

【報 告】

報告番号	件 名	議決日
第 1 号	田川市教育委員会職員の任免異動について	H22.4. 5

※「報告」とは、田川市事務委任及び臨時代理規則第 3 条ただし書の規定による報告をいいます。

【事務報告】

番号	件 名	議決日
1	平成 22 年度田川市立小・中学校教職員人事異動の総括について	H22. 4. 5
2	平成 22 年度教育委員学校訪問の実施について	〃
3	平成 22 年度田川市幼児教育審議会の委員について	H22. 5.12
4	ユネスコ記憶遺産（MOW）の取組みについて	〃
5	田川市緊急課題検討委員会の検討経過について	H22.12.14
6	平成 23 年度田川市立幼稚園園児募集について	〃
7	田川市緊急課題検討委員会の検討経過について	H23. 2. 9

※「事務報告」とは、教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務に関して行う報告をいいます。

教育委員研修会等参加状況

(資料3)

開催日	研修内容	主催	場所
H22. 4. 7	福岡県立川崎特別支援学校入学式	川崎特別支援学校	川崎町
H22. 4.21	管内市町村教育委員会教育長会議	筑豊教育事務所	飯塚市
H22. 4.23	福岡県市町村教育委員会教育委員長・教育長会議	福岡県教育委員会	福岡市
H22. 4.23	福岡県市町村教育委員会連絡協議会総会	県市町村教委連絡協議会	福岡市
H22. 4.28	第1回管内教科用図書調査研究協議会	管内教科用図書調査研究協議会	飯塚市
H22. 5. 2	第48回筑豊地区空手道選手権大会	筑豊地区空手道連盟	田川市
H22. 5.18	管内市町村教育委員会教育長会議	筑豊教育事務所	飯塚市
H22. 5.21	県教委との教育行政に関する打合せ	福岡県教育委員会	福岡市
H22. 5.21	第53回福岡県市町村教育委員会女性教育委員研修会	県市町村教委女性教委研修会	福岡市
H22. 5.25	田川市郡租税教育推進協議会第2回定時総会	田川市郡租税教育推進協議会	田川市
H22. 5.28	福岡県人権擁護委員連合会総会	福岡県人権擁護委員連合会	添田町
H22. 6. 3	市民と自衛隊との音楽の夕べ	陸上自衛隊飯塚駐屯地	田川市
H22. 6.16	管内市町村教育委員会教育長会議	筑豊教育事務所	飯塚市
H22. 7. 3	福北学童軟式野球連盟発足及び記念祝賀会	福北学童軟式野球連盟	飯塚市
H22. 7. 6	第3回管内教科用図書調査研究協議会	管内教科用図書調査研究協議会	飯塚市
H22. 7. 9	教職員の不祥事防止に係る緊急対策会議	福岡県教育委員会	福岡市
H22. 7.13	筑豊地区学校給食会連合会会議	筑豊地区学校給食会連合会	飯塚市
H22. 7.13	管内市町村教育委員会教育長会議	筑豊教育事務所	飯塚市
H22. 7.21	筑豊市町村教育委員会連絡協議会役員会	筑豊市町村教委連絡協議会	飯塚市
H22. 7.21	筑豊地区緑化推進委員会総会	筑豊地区緑化推進委員会	飯塚市
H22. 8. 4	第55回福岡県公民館大会	福岡県公民館連合会	田川市
H22. 8. 6	第54回福岡県市町村教育委員会女性教育委員研修会	県市町村教委女性教委研修会	福岡市
H22. 8. 9	筑豊地区小学校長会総会・研修会	筑豊地区小学校長会	田川市
H22. 8.17	福岡県市町村教育委員会連絡協議会教育長研修会	県市町村教委連絡協議会	筑紫野市
H22. 8.22.	第22回西日本空手道選手権大会	福岡県松濤館空手道連盟	田川市
H22. 8.29.	福岡県剣道連盟田川支部錬成大会	(社)福岡県剣道連盟田川支部	田川市
H22. 9. 7	管内市町村教育委員等人権・同和教育研修会	福岡県教育委員会	嘉麻市

H22. 9.10.	福岡県社会教育研究大会	福岡県教育委員会	篠栗町
H22. 9.15	管内市町村教育委員会教育長会議	筑豊教育事務所	飯塚市
H22. 10.8	筑豊地区市町村社会教育委員研修会	筑豊地区市町村社会教育委員研修会	桂川町
H22.10.14	第24回九州都市教育長協議会定期総会並びに研究大会	九州都市教育長協議会	大分市
H22.10.18	管内市町村教育委員会教育長会議	筑豊教育事務所	飯塚市
H22.10.27	宮若市立認定こども園さくら幼稚園	田川市教育委員会	宮若市
	玄界ゆりの樹幼稚園		宗像市
H22.10.28	第2回福岡県人権教育研修会（学校教育）	福岡県教育委員会	田川市
H22.11. 7	ジャパンリーグ読売新聞社旗争奪トーナメント大会開会式	日本硬式少年野球連盟	田川市
H22.11.18	管内市町村教育委員会教育長会議	筑豊教育事務所	飯塚市
H22.11.21	第37回福岡県父母と教師の教育交流大会	福岡教育連盟	直方市
H22.11.26	第2回福岡県人権教育研修会（学校教育）	福岡県教育委員会	田川市
H22.12. 8	管内市町村教育委員会教育長会議	筑豊教育事務所	飯塚市
H22.12.11	JR九州野球部選手による田川市中学生野球教室	全日本軟式野球福岡県連盟	田川市
H22.12.16	北九州・筑豊地区公立小中学校校長人権・同和研究会研修会	北九州・筑豊地区公立小中学校校長人権・同和研究会	田川市
H23. 1.21	管内市町村教育委員会教育長会議	筑豊教育事務所	飯塚市
H23. 1.26	福岡県市町村教育委員会連絡協議会教育委員長研修会	県市町村教委連絡協議会	福岡市
H23. 2. 4	福岡県幼稚園新規採用教員研修運営協議会	福岡県教育委員会	福岡市
H23. 2. 5	「わたしの主張」田川地区大会	福岡県青少年育成県民会議	香春町
H23. 2. 7	管内市町村教育委員会教育長会議	筑豊教育事務所	飯塚市
H23. 2.15	お客さま懇談会（経営姿勢・事業活動について）	九州電力株式会社	田川市
H23. 2.18	第3回筑豊教育事務所管内人権推進委員会	筑豊教育事務所管内人権推進委員会	飯塚市
H23. 2.18	筑豊市町村教育委員会連絡協議会会議	筑豊市町村教育委員会連絡協議会	飯塚市
H23. 3.24	管内市町村教育委員会教育長会議	筑豊教育事務所	飯塚市
H23. 3.30	田川地区高等学校同和教育推進中長期プラン2010第2回推進学習会	田川地区高等学校同和教育推進学習会	香春町

教育委員学校訪問日程

(資料 4)

【定期学校訪問】

実施日：平成22年5月11日（火）

学 校 名	内 容
大浦小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・校内巡視、授業参観（2時限目） ・学校経営、児童指導状況説明と懇談・指導助言 ・給食試食と参観
金川中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・校内巡視、授業参観（5時限目） ・学校経営、生徒指導状況説明と懇談・指導助言

実施日：平成22年5月17日（月）

学 校 名	内 容
後藤寺小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・校内巡視、授業参観（2時限目） ・学校経営、児童指導状況説明と懇談・指導助言 ・給食試食と参観
田川中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・校内巡視、授業参観（5時限目） ・学校経営、生徒指導状況説明と懇談・指導助言

実施日：平成22年5月19日（水）

学 校 名	内 容
田川小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・校内巡視、授業参観（2時限目） ・学校経営、児童指導状況説明と懇談・指導助言 ・給食試食と参観
猪位金中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・校内巡視、授業参観（5時限目） ・学校経営、生徒指導状況説明と懇談・指導助言

【授業充実学校訪問】

訪問年	月	日	曜	学 校 名	内 容
平成22	6	4	金	中央中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・筑豊教育事務所指導主事による授業参観 ・指導方法、内容等の改善協議会 ・学力向上方策等の学校運営の説明、協議
"	6	17	木	伊田小学校	
"	6	28	月	金川小学校	
"	10	5	火	鎮西中学校	

田川市教育委員会委員名簿

(資料5)

平成23年3月31日現在

区分	(ふりがな) 氏名	保護者	性別	現在の任期 (委員長職等の任期)	過去の在任期間 (委員長職等の任期)
委員 (委員長)	かしむらあきこ 柏村晶子		女	H21.10.11~H25.10.10 (H22.10.1~H23.9.30)	H13.10.11~H21.10.10 (—)
委員 (委員長職務代理)	かんぎきようこ 神崎陽子	○	女	H20.10.1~H24.9.30 (H22.10.1~H23.9.30)	H16.10.1~H20.9.30 (—)
委員	せといくのり 瀬戸郁則		男	H20.10.1~H24.9.30	H16.10.1~H20.9.30
委員	もうりしんいちろう 毛利眞一郎		男	H22.1.1~H23.12.24	—
委員 (教育長)	おきがきゆうぞう 尾垣ゆうぞう		男	H22.10.8~H26.10.7 (H22.10.8~H26.10.7)	H21.7.1~H22.10.7 (H21.7.1~H22.10.7)